■日刊建設通信新聞（2014 年 2 月 3 日付）

インタビュー「閑話：執行役員東北支店長　江藤和昭氏－目に映るものが仕事に」

閑話

江藤 和昭さん

「目の前に見えるものすべてが仕事に直結する」と語るのは、オリエンタルコンサルタンツ執行役員東北支店長の江藤和昭さん。

大学で学んだ交通工学の知識を生かそうと、交通分野に強みのある同社に入社。首都高速道路の渋滞解消や新宿御苑トンネルの管理手法、羽田空港の構内道路標識の検討などに携わった。

目に映るものが仕事に

どんな仕事をする際も「自分の目で現地を確認する」ことを欠かさない。自分の足で現地を歩き、地域の声を聞き取る。タクシーであちこち回り、運転手さんにまちの様子を教えてもらうことも多いという。

「現地に行けば、既存の文献ではわからないことが確認できる。提案書に『強く書く』ポイントを探るには、自分の目で確かめるしかない」

こんな考えのもとで仕事を続けているうちに、目に映るものすべてが気になるようになった。道路標識や歩道の段差、まちのスカイラインなど。「最初は嫌だったが、年を重ねるごとに楽しくなってきた。職業病かな」と笑う。

視力を尋ねると「老眼になってきたが、まちの様子はよく見える」と返ってきた。